

「近代から現代に繋がる沖永良部島の社会経済、教育に関する調査・資料収集」

プロジェクト参加教員

西村知（法経社会学科経済コース 教授）、中谷純江（総合教育機構グローバルセンター教授）、日高優介（「鹿児島県の近代」教育研究センター 特任助教）

役割分担：西村＝調査・資料収集、研究の総括、中谷・日高＝調査・資料収集

助成額

50 万円

プロジェクトの目的

本研究は、近代から現代までの沖永良部島において、グローバル経済と島民がどのような関係性を構築してきたか、その過程で、女性や家族、地域共同体がどのように変容したか、教育とこれらの社会経済の変化にはどのような関係性があったのかという課題について、文献収集、聞き取り調査に基づきながら、経済学、社会学、教育学の観点から明らかにする。鹿児島県の離島の近代から現代の歴史を、より深く理解し、現代の離島における諸課題を解決するためのアイデアを提案することは「『鹿児島県の近代』教育研究拠点整備事業」の主旨と直結している。

プロジェクトの内容

西村は 2022 年 12 月 10 日から 15 日、2023 年 3 月 24 日から 29 日、沖永良部島で文献収集、聞き取り調査を行った。文献収集は、1900 年代から、1930 年までのユリの生産、輸出をテーマとしたものを対象とした。聞き取り調査は、ベトナム技能実習生の受け入れに関する問題について詳しいライターの水嶋氏から情報収集を行った。定住フィリピン人に関しては、27 名に対して聞き取り調査を行った。ユリに関する文献研究、ベトナム人実習生に関する研究は進行中である。

日高は、2022 年 7 月 22 日から 25 日、同年 10 月 21 日から 23 日、2023 年 3 月 21 日から 28 日に沖永良部島と那覇市で文献調査、聞き取り調査を行った。文献調査は近現代の沖永良部島に関する書籍を対象とし、これらの中で「教育」に関する言説を確認した。聞き取り調査は、郷土史家である先田光演氏（和泊町）などから、沖永良部における教育について情報収集を行った。

中谷は、2022 年の 8 月 5 日から 18 日まで沖永良部島・沖縄・神戸を調査し、沖永良部和泊町内城在住の家族にインタビューを行った。女性（100 歳）と 4 人の娘（70～60 代女性）、息子（60 代男性）への聞き取りにもとづいて近現代のエラブ社会における女性の行為主体性（エイジェンシー）を考察した。

プロジェクトの成果

西村の沖永良部島の定住フィリピン人を対象とした調査研究の結果、介護、スーパーなど島の生活に密着した業種において、フィリピン人の貢献度が高いこと、一部は異業種にまたがって就労していること（生業複合）が確認された。また、フィリピン人の一部は、自国の食文化などを基礎とした小規模ビジネス（ディアスポラビジネス）を行っていることが明らかになった。

日高の沖永良部島における教育を対象とした調査分析の結果、主として近代以降の沖永良部島について「教育の島」という言説が用いられていることや、その要因とされる諸状況について確認できた。また、それとの因果関係はあきらかではないものの、他の奄美群島や日本全体の平均と比較して、沖永良部島から医師を多く排出していることを明らかにした。

中谷の沖永良部島における女性を対象とした調査分析の結果、明治・大正・昭和の3世代の女性のライフヒストリーを明らかにし、農業経営における「ヤトゥイ」との関係や、家族における女性の発言権、女性が人生で行った選択や決定などを奄美北部や本土の農村社会と比較から明らかにした。

プロジェクトの成果物

<論文>

西村知、ニシムラ・ジョアン・テハダ「沖永良部島和泊町における外国人労働をめぐる現状と課題」『国際島嶼産業研究』（島嶼産業学会）第5号、p. 1-9. 2022年6月.

西村知、ニシムラ・ジョアン・テハダ、スリット・アロンドラ・ゲイル・トレス、日高優介「沖永良部島における外国人労働をめぐる現状と将来展望」『経済学論集』第100号 p. 1-17. 2023年3月.

日高優介、澤田成章、西村知「「教育の島」沖永良部島出身医師の研究一言説の構築に着目して」『経済学論集』第100号 p. 35-56. 2023年3月.

<書籍等出版物>

西村知「離島の地域課題解決に関する研究プロジェクト：沖永良部島を対象として」『「鹿児島島の近現代」教育研究センター 近現代センター通信』創刊号、pp. 6-7. (2023年3月)

<講演・口頭発表（海外）>

Nishimura, Satoru. Drivers of Immigration in Ami islands, Japan: Change of Lifestyle, Diversity, and Multiculturalism. International Small Islands Conference. Shetland, Scotland, UK. 22-25 June 2022. (Via zoom)

Nishimura, Satoru and Serafica, Paul. A Scenario for Settled Filipinos to Contribute to the Formation of Sustainable Agriculture on a Small Remote Island in Japan.

Philippines Study Conference in Japan. Tokyo University. November 27, 2022. (Via zoom)

Nishimura, Jo-Ann and Nishimura, Satoru . A Study on Filipino Intern Technical Trainees and Agricultural Business by Filipino Residents in Rural Japan. Philippine Study Conference in Japan. Tokyo University. November 27, 2022. (Via Zoom)

< 講演・口頭発表（国内） >

日高優介「沖永良部島の社会移動——島出身の医師に焦点を当てて」日本島嶼学会 2022 年度沖永良部大会 2022 年 10 月 23 日.

中谷純江「近現代エラブ社会における女性の行為主体性」日本島嶼学会 2022 年度沖永良部大会 2022 年 10 月 23 日.

西村知、ニシムラ・ジョアン・テハダ「沖永良部島和泊町における外国人労働をめぐる現状と展望」日本島嶼学会 2022 年度沖永良部大会 2022 年 10 月 23 日.

< 学術貢献活動 >

「鹿児島県の近現代」教育研究センター地域シンポジウム『沖永良部の近現代』（和泊町、2023 年 3 月 27 日開催）西村知、日高優介がそれぞれ報告。

< 社会貢献活動 >

鹿児島県教育委員会主催「第 3 回 高校生探究コンテスト」最優秀賞
沖永良部高校「無意識的なジェンダー差別を次世代に残さないために」（2023 年 1 月）

* 中谷が研究内容から助言

< メディア報道（海外） >

西村知「離島経済を支えるフィリピン人」『日刊まにら新聞』*フィリピンの邦字日刊紙（2023 年 2 月 23 日付）



（左）日本島嶼学会 2022 年度沖永良部大会における西村の口頭発表

（右）前登志朗和泊町長へ調査の主旨説明